

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>家庭に生活していた時のように洗い物や食器片づけなどをして頂くことにより、入居者の残存機能を維持していく理念としている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>運営理念について職員トイレに掲示するなどして啓蒙をはかると共に、入居者の生活の一部に取り入れられ実践をはかっている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>地域の人々への働きかけがないと判断する。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>隣近所とのつきあいはほとんど無い状況である。</p>	<p>奥まったところに立地しているという状況もあるが、近くの病院の行事へ参加したり、グループホーム同士の交流もはかっていくことが必要だと思われる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価及び外部評価の実施を期に改善に取り組んでいる。指摘された玄関周りの雰囲気やホールの家庭的な雰囲気作りなど。</p>	
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議において評価の報告を行った。</p>	
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に市の介護保険課担当者を交えて行っている。</p>	
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>学ぶ機会を設けていない。</p>	<p>研修会に参加し、学んで活用したい。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待は行っていない。面会や施設の出入りは事前の申込無く自由であり、オープンに努めている。</p>	<p>研修会などに参加し、関連法について学ぶ。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は十分に説明を行っており、理解を得た上で記名捺印を頂いている。</p>	
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>要望や苦情について利用者から出た場合は添うように努めているが、その内容を外部者へ表せるような機会はない。</p>	<p>不満や苦情の公表を行う。デパート等の苦情改善の公表のように、問題点と解決の状況等を張り出していくことを検討する。</p>
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>全体的な暮らしぶりについてはお便り等を利用して報告してる。健康状態等については異常が認められた場合報告している。</p>	<p>健康状態について定期的に報告するような仕組みづくりを検討したい。</p>
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>要望や苦情について利用者から出た場合は添うように努めているが、その内容を外部者へ表せるような機会はない。</p>	<p>不満や苦情の公表を行う。デパート等の苦情改善の公表のように、問題点と解決の状況等を張り出していくことを検討する。</p>
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>勤務シフトの時間帯や、仕事内容の分担等を常に改善していくよう月1回のミーティングで話し合い、柔軟に対応している。</p>	
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況の変化に応じた勤務体制をとるということをしていない。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>特別な理由がない限り職員の異動は行っていないが、退職による交代について、利用者へのダメージ防止という配慮は特にしていない。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>限られた人員数で行っているため、研修に参加させる機会が少ない。</p>		<p>非常勤者の利用等により研修に参加できるような機会を確保したい。</p>
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は他の事業所と交流しているが、職員が交流する機会はないのが現状である。</p>		<p>近隣の事業所の訪問見学から初めて交流を持ち、勉強会などの開催につなげていきたい。</p>
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職務分担等を均一にする要改善に向けてすすめているが、その他のストレス軽減については行われていない。</p>		<p>メンタル面でのストレスを軽減する工夫をしたい。</p>
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>努力や実績、勤務状況について把握している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ケアマネジャーが入居相談から入居後の相談まで行っており、対応している。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ケアマネジャーは、相談時、当グループホームのサービスが妥当かどうか家族と話し合い、場合によっては他のサービスを進めるなどしている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>これまでの暮らしぶりや職歴、性格などの情報をスタッフで共有して、早くなじめるようコミュニケーションを取っている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者とのコミュニケーションを大切にしているが、はかるものが無いため判断が難しい。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを大切にしているが、はかるものが無いため判断が難しい。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	相談時及び情報提供書により理解するよう努め、その関係を踏まえて対応している。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等は自由に来て頂いているが、こちらからで向くような支援はほとんど出来ていない。病院等はそのまま利用して頂いている。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	部屋に閉じこもったりすることなく、出来るだけホールで他の入居者と混じり合うよう雰囲気作りをしている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後に継続的な関わりがあった事実がこれまでない。		当ホームでの暮らしぶりなど、情報が必要な場合等は気兼ねなく受ける雰囲気作りになっているとは思われる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居面談時には職員と家族により思いや希望を聞き、その情報をもとに職員ミーティングで今後のケアの方向性について話し合いを行い、全職員が統一したケアを提供できるよう心がけている。また困難な場合には家族からの情報や生活歴をもとに最も本人らしい生活を送ることが出来るようにはどうしたらいいか話し合いを行っている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>上記同様、入居面談時に本人や家族から情報収集を行っている。また日々ケアを行っていく中で状態変化や気になる動作・言動等をみたり聞かれた場合には家族の面会時または電話により伝えるなどしてさらに情報を集め、そのことにつながる何かがあるのかを明確にし、全職員が分かるよう申し送りノートを使用し伝え、把握できるようにしている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>全職員が入居者1人1人の状態や生活リズムを把握できている。状態変化が見られた場合には本人の意思を尊重した上でミーティング時やその都度職員同士で話し合い、今後のケアの方向性を明確にし全職員が統一したケアを提供できるよう心がけている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の言葉や思いを主体とした介護計画を作成している。また家族が面会にきた際には、家族の思いや要望等を聞き、作成に取り入れるようにしている。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月1回、全職員で行われるカンファレンス会議にて入居者の現状や新たな気づきをもとに全職員で意見を出し合い、介護計画の見直しを行っている。また見直し以前に状態変化が見られた場合にはその都度話し合いを行い、現状にあった介護計画を作成している。</p>	<p>現在は作成後に家族へ介護計画の内容を説明し、理解して頂いていることがおおいいため、今後は入居者の現状を伝えた上で介護計画作成前に家族の意見や要望を取り入れ、より内容の濃い介護計画の作成をしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々生活していく上で見られる表情や聞かれる言葉又ケアを実践した上での結果は生活記録として毎日残すようにしている。気づきや工夫については申し送りノートやミーティング時を利用し職員間で話し合い、情報共有し介護計画見直し時に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
36 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(該当せず)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
37 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の要望を聞き、年に数回歌や踊りの慰問等ボランティアとして来て頂き、協力を得ている。また、定期的に運営推進会議を行い、地域の方や民生委員、ご家族に参加して頂いている。		
38 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入退去時の情報交換の他、状態変化等の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合いを行っている。		
39 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	情報提供書を医師に提出しており、また状態変化が見られた場合にはその都度新たに作成し提供している。定期受診他気になる症状が見られた場合にはその都度受診している。家族側で受診希望される場合には状態を伝え、医師へ報告して下さるようお願いしている。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関として協力して頂き、受診時には付き添った職員(主に看護職員)から医師へ状態報告を行い、医師の判断にて必要ならば検査等も行っている。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が週に2回定期的に健康チェックを行い、健康管理を徹底している。状態変化や気になる症状等があれば気づいた職員が看護職員へ報告し、必要ならば医療機関受診を行い、医師へ相談している。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ホームとして出来るケア等を職員(主に看護職員)から医療機関へ伝え、相談している。また、入院時にはホームから病院へ退院時には病院からホームへ情報提供書を作成するなどし、情報交換に努めている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員(主に看護職員)からかかりつけ医へ状態を報告し、その内容を家族へ連絡している。また家族と医師、職員、可能であれば入居者本人も交え、今後の方針についての話し合いを行っている。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホーム側の「できること・できないこと」を職員からかかりつけ医へ報告し、相談の上家族を交え今後のケアの方向性について話し合いを行っている。また状態変化等が合った場合に備えた対応についても事前の話し合いを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前の面談の際、本人家族の希望を一通り聞き、職員間で情報を共有している。しかし、設備面(テレビ・トイレ・風呂など)本人が馴染んだものについては他者との共同生活上反映できないことが多い。習慣については出来るだけ希望に添えるよう支援する努力をしている。		施設としての方針や他者との共同生活であることを入居前に明確に説明し、家族本人に納得を得られるよう努める。その上で本人の希望に添い、環境を整えたり本人の習慣や本人らしい生活が送れるよう職員間で話し合い、快適に過ごせるようプランを立てる。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
47 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全入居者の入居前の情報、現在の状況を全職員で共有した上で各入居者にあわせた対応を行っている。記録については個人名を直接出さないよう伏せたり、職員家族他、必要以外外部に漏れることの無いよう徹底してる。		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分から訴えられる入居者については積極的に受け入れ、自己決定して頂く。自分から訴えられない入居者についてはコミュニケーションを多く持ち、希望を引き出せるよう援助している。職員側からの押しつけにならないようにしている。		
49 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や入浴・食事等1日の中の日課については施設側で流れを作り入居者に提供している状況であるが、本人が希望する場合には出来るだけ自由に過ごして頂くようにしている。		各入居者が好きな時間に起きて食事をし、好きな時間に入浴できるよう職員の業務態勢を工夫し環境作りしていきたい。また共同生活を活かし、入居者同士で話し合って何をしたいか決定するような機会も設けたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣服に関しては家族が準備したり持ち込んだものを来ている状況であるため、その人の希望するおしゃれが出来ているか判断できない。散髪についても施設側で提供する理髪店を希望する家族が多いため、利用者の希望に添えているとは思われない。		家族・入居者の希望を聞く機会を増やし、希望に添って好きな時に衣類の買い物に出かけたり、理美容のために外出できるような環境を作りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成担当者が入居者の食の好みを活かしながら1週間毎にメニューをたてている。準備については食材切りや盛りつけ、片づけについては茶碗洗いや茶碗拭きを職員と共に行っている。食事については毎日検食として入居者と同じ食事を摂ってコメントを残すようにしている。しかし、入居者と共に食事を摂る体制にはなっていない。		入居者と同じ食事を同じ時間にとれる体制を作っていければと思っている。また暖かい時期には入居者と一緒に近所のスーパー等へ行き食べたいものを聞きながら買い物する機会を設けていきたい。
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつについては10時、15時とし1日2回の決められた時間と、入居者からの希望があればその都度提供している。飲み物については入居者の手の届くところにポットを設置し、好きな時にお茶やコーヒーを作って飲めるようにしている(職員の見守りあり)		10時と15時の決められた時間のみ提供するのではなく入居者が好きな時に軽く口に出るようなおやつをテーブル上に置くなど日常的に楽しめる工夫をしたい。また現在はお酒タバコを嗜好される方はいないが今後はそのような方が入居された場合にも制限せず楽しめる空間を作っていきたい。
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	1日を通し必要な入居者に対してはトイレ誘導を行っている。声がけに対して拒否があった場合には時間をずらし再度声がけをしたり訴えがあった場合に誘導するようにしている。排泄後動作については出来る限り自力で行っていただくよう声がけや見守りを行い、不十分な方にはケア者が介助するようにしている。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎週2回(火・金)を入浴日としている。時間については入居者の希望を聞き、午前午後好きな方に入浴して頂いている。また入浴時間は10時～12時、14時～16時が主な入浴時間となっている。		職員数の関係もあり現在は回数・曜日を定められた日に入浴する体制であるが、今後は入居者の希望や生活スタイルに合わせて入浴できるようにしたい。
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1日を通し好きな時間に居室やソファ等で休息できるようにしている。しかし場合によっては夜間不眠を起こさないよう一定の時間を過ぎたら声がけをして起きてもらうようにしている。夜間については21時消灯としているが、希望により臨機応変に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	茶碗洗い・茶碗拭き・食材切り・盛りつけ等台所仕事や、洗濯物たたみ・掃除・裁縫等の家事やレク活動(貼り絵やぬりえ)を好きな時間に自由に行えるようにしている。また暖かい時期には近場ドライブやショッピング、園外散歩とう気分転換を図っている。		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額であれば本人持ちの財布にて持っている入居者もいるが、実際に使うことはほとんど無く、お金は施設側で管理し、必要な買い物は職員が行い、外出した際も支払は職員が行っている。		トラブル防止のため金銭管理や施設側で行っているが、簡単な買い物程度であれば少額を本人に管理して頂き買い物～支払を自己決定できるよう支援していく。
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	暖かい時期には入居者が外へ出たいと希望があれば職員付き添いのもと外出しているが、個人ではなく何人かで出かけることが多い。また自分から余り訴えない入居者については行事等職員側決定での誘いで外出することが多い。		暖かい時期、天気の良い日は「どこかへ出かけませんか」と職員が声がけすることを習慣化し積極的な外出の促しを行っていききたい。また、普段のコミュニケーションの中にも地域の催し物や時期の話題を取り入れて行動意欲が高まるような働きかけをしていきたい。
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事等で入居者の意見も採り入れ職員が計画し遠出のドライブやお墓参り等外出する機会を設けている。しかし家族への外出の誘いは行われておらず、時々面会に来た家族と外出する程度である。		日頃から家族との連絡をこまめに取り、家族・入居者と共に計画した外出や外泊の機会を積極的に設けていきたい。また定期的にアンケートを採るなど習慣として意識づける工夫をしていきたい。
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字を書けない入居者もいるため手紙のやりとりをする機会はあまり無いが、電話については入居者からの希望があればその都度対応し、ダイヤルするなど支援している。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族が面会に来た際には本人だけでなく職員が間に入り他入居者と交流を図ったり顔なじみになったりと気軽に楽しんでいただける雰囲気作りが出来るよう努めている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全入居者に対し身体拘束はいっさいない。また職員に対する意識づけもしっかりと行っている。目配り気配り安全対策を全職員徹底し、事故が起こらないよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関・居室は自由に出入りできるよう鍵をかけておらず、離所の可能性が考えられる入居者については常に職員が1名ホールに残り見守り出来る体制を作っている。また、外出を希望する入居者についても必ず1名職員が付き添い、事故防止に努めている。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中ホールにて過ごされている入居者については常に職員が見守りを行い、様子を把握している。また、居室で過ごされている場合は時間毎に職員が居室へ伺うなどして所在を把握している。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険が予測されるものについては保管・管理場所を決めている。また、入居者が使用する物品(刃物等)についても保管場所は決めているが、訴えある場合には常に貸し出せる状況を作っている。使用時には職員が見守り、事故防止に努めている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	医療マニュアルを用意しており、全職員で目を通すようにしている。また、日々の生活の中で事故が予測されることについては申し送りノートやミーティングを利用し全職員で予防策を考え、事故防止に取り組んでいる。		医療マニュアルに目を通すだけでなく、看護師を含め定期的に勉強会を行い、全職員が把握できている状態を常に作っていきたい。
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護職員が急変時対応マニュアルを作成し、全職員が目を通し対応できるようにしている。しかし、定期的な訓練は現段階では行えていない。		定期的に勉強会を開き、入居者1人1人の現病歴や既往歴を把握した上での急変時対応について見直す機会を設けていきたい。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の人々との関わり合いが少なく、協力を得られる体制となっていない。		近所の方々と行事や見学会を設けることにより関わりを作り、災害時の協力を得るようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者個々の生活スタイルの中で考えるリスクについて面談時または面会時に家族へ説明している。また出来る限り入居者の生活スタイルを尊重できるようなケアを提供できるようミーティング時に職員間で話し合いを行い、実践している。		都合等でなかなか面会に来られない家族にも現在行っているケアについて理解していただけるよう職員間で話し合った際にはその内容を電話で家族へ伝えられるようにしたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者1人1人の日々の状態を把握し、特変時には早期発見が出来るよう心がけている。また基本的な対応については全職員が把握し行っている。その他気になる症状等がみられた場合には事前に職員間で申し送りノートを利用して情報を共有している。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者1人1人が服用している薬について看護職員からの説明や全職員が受診票や処方箋に目を通して理解していると思われるが、確認するところまでには至っていない。また新しく処方された薬についてはその都度看護職員からの申し送りや説明を受けている。		看護職員も交え定期的に入居者1人1人が服用している薬についての見直しや確認を行ったり、勉強会を開くなど全職員が常に理解できている状況を作っていくたい。
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲んでもらったり出来るだけ多く水分を摂ってもらうなどして便秘予防に努めている。また、暖かい時期には園外散歩を行ったり、寒い時期には室内で出来る軽い運動を行うなど体を動かす機会を多く設けている。		
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後入居者1人1人の状態に応じて声がけを行ったり、義歯洗浄・口腔ケアを行い清潔保持に努めている。		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量については毎日記録として残し、摂取量が少ない入居者については病院で個々に処方されているエンシユアを飲んで頂き栄養維持に努めている。しかし1日を通しての水分量については記録としては残せていない。		入居者1人1人の状態把握のために1日の水分量を記録として残していくようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	動作毎(館内への出入り、排泄介助等)手洗いうがいの徹底やマスク、ティッシュの着用、館内の消毒、タオル類の消毒を毎日行っている。また、入居者個別の手ふきタオルを準備したり衣類の消毒をその都度行い、徹底して感染症予防に努めている。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所は使用の都度清掃し清潔を保っている。包丁等調理用具も使用の都度消毒を行っている。食材については献立に合わせ適量のみ購入し、常に新鮮な食品を提供するよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家族や来客があった際は玄関としてわかりやすく入りやすい様手作りの看板を設置したり、すぐに対応できるよう職員間で意識づける等安心感を与えられる雰囲気作りに努めている。また、季節に合わせて花を置く等工夫している。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下には季節に合わせて飾り付けを行い、季節感を感じていただけるよう配慮している。また、入居者の写真を飾って、入居者同士の会話の糸口となるよう工夫している。浴室やトイレ等は無駄なものは省き、清潔感を出すと共に安全であるよう配慮している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにマッサージチェアを置きくつろいでもらったり、テレビを囲みソファを配置することで入居者同士が会話をしながら余暇時間を過ごすことが出来るよう配慮している。また、気分転換を兼ねて、時々配置や模様替えをするなど工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>備え付けのベッドとタンス以外は本人と家族が今まで自宅で使い慣れたものを持ち込んで頂き、自宅での暮らしに近いよう配慮している。仏壇を置く方や小さなテーブルやイスなどを置き、他者との交流の場にもなっている。必要に応じて家族本人に相談しながら居室での快適な空間が作れるよう努めている。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>掃除の際日中1～2回の換気を行い、空気の入れ換えをしている。またトイレ、ポータブルトイレのある居室には芳香剤を置き、悪臭のでないよう配慮している。温度調節については寒い時はホールや廊下に暖房器具を置き、暑い時は窓を開けるなどして調節している。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>館内はバリアフリーとなっており、廊下には手すりが付いているため歩行が不安定な方や車椅子利用の方でも移動が出来るようになっている。夜間トイレ誘導が必要な方には居室にポータブルトイレを置き、排泄の負担を軽減したり身体レベルに合わせた居室の配置になるよう努めている。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>入居者1人1人の馴染みのあるものを絵に描き各居室入り口に掲示したり、トイレの場所を示すものを貼るなどして混乱を招かないようにしている。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>暖かい時期には中庭の畑に草花や野菜等を植えて、草刈りや野菜の収穫をするなどで楽しんで頂いている。園内では入居者の生活ペースに合わせて、自由に出来るスペースや休んでテレビを見られるスペース等確保している。</p>		<p>暖かい時期には畳を敷いて昼寝が出来るスペースを、寒い時期にはこたつを置くなど、その季節に合わせた空間づくりをしていきたい。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「ゆったり、のびのびと過ごすことが出来る空間づくり」...入居者1人1人の個性を生かしたケア、また1人1人が自分のペースで自由に過ごすことが出来るためのケアを目標とし、職員1人1人が統一したケアを提供できるよう日々実践しています。
職員と一緒にゆったりとした雰囲気の中でお茶を飲みながら雑談したり、家事作業、畑仕事、裁縫や手芸などの作品づくりを行ったりと、得意とすることを活かしていくと共に暖かい時期には散歩やドライブ、ショッピング等へ出かけたり...普通の生活の中で楽しみを増やしていただけるようなケアを心がけていきます。